

鳥取大学附属中学校研究業績
A List of scientific contributions made by the staff of Tottori University Junior High School
(2015~2017)

以下のリストは、本校教員の著書・論文等の研究業績ならびに学会発表・講演を過去 3 カ年(2015~2017)分について教科ごとにまとめたものである。このリストは、現在は異動しているが、この期間に本校に在籍していた教員が本校在籍中におこなった研究成果も含む。

配列は、本校教員(下線)の氏名のアルファベット順で、同一教員の中では第 1 著者(第 1 発表者)か否かにかかわらず、発表年月日順である。

論文等については、すべてではないが、別刷の PDF ファイルが鳥取大学研究成果リポジトリ(<http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/>)からダウンロードいただけるものもあるのでご利用いただきたい。

編集: 中尾尊洋・鶴崎展巨

【国語】

論文

1. 齋藤隆彦(2015)国語科において《類似》を意識させることの意義. 日本教科教育学会誌, 38(1): 37-47.
2. 齋藤隆彦 (2015)『抽象・具体の力』を育成する国語科授業のあり方. 中学校での長期的考察をもとに. 日本教科教育学会誌, 37(4): 51-61.
3. 齋藤隆彦 (2017)「自立し、つながり、探求し、創造する力の育成(2年次)」『平成 28 年度鳥取大学地域学部学部長経費「附属学校園との教育連携実践プロジェクト研究」報告書』鳥取大学 教育・研究プロジェクト, pp. 99-130.

学位論文

1. 齋藤隆彦 (2015) 「《類似》の力を育てる中学校国語科授業の研究」広島大学大学院 学位論文(博士)

その他

1. 齋藤隆彦 (2015) 連載「教室のやりくり 使い回しと合わせ技」⑩「『試行錯誤』の繰り返しが『プレゼン』力を高め、『プレゼン』が『試行錯誤』力を育てる! 1」. 授業力&学級統率力(明治図書), No. 58, 裏表紙-裏表紙裏.
2. 齋藤隆彦 (2015) 連載「教室のやりくり 使い回しと合わせ技」⑪「信頼が『やりくり』力を育てる。『分かち合い』の合わせ技」. 授業力&学級統率力(明治図書), No. 59, 裏表紙-裏表紙裏.
3. 齋藤隆彦 (2015) 連載「教室のやりくり 使い回しと合わせ技」⑫「信頼が『やりくり』力を育てる。『分かち合い』の合わせ技」②. 授業力&学級統率力(明治図書), No. 60, 裏表紙-裏表紙裏.
4. 齋藤隆彦 (2015) 帯单元作り一落とし穴はここ. 教育科学 国語教育(明治図書), No. 782, pp.40-41.
5. 齋藤隆彦 (2015) 板書を教師が極力しない 『謎』こそが生徒の『探究心』をくすぐり育てる. 教育科学 国語教育(明治図書), No. 792 pp.70-73.
6. 齋藤隆彦 (2016) 想像力を喚起する『何もない教室』. 授業力&学級経営力(明治図書), No. 72, pp.58-59.
7. 齋藤隆彦 (2016) 発表会のとっておきアイデア 中学校. 授業力&学級経営力(明治図書) No. 78, pp. 72-73.

学会発表

1. 齋藤隆彦：「《類似》の力」の育成における「帯単元」の意義. 全国大学国語教育学会第 128 回全国大学国語教育学会兵庫大会. 姫路市商工会議所 (姫路市). 2015 年 5 月 31 日(口頭発表)

【数学】

著書

1. 鳥取数学教育会(編)(2015). 関数と方程式 I 授業設計資料集, 鳥取大学数学教育学研究室. 第 2 部実践編(pp. 23-89)を執筆. 山脇雅也
2. 溝口達也・山脇雅也(2017). 新訂 関数と方程式 III:2 次関数と 2 次方程式. 鳥取数学教育研究会 (鳥取大学附属中学校)

論文

1. 矢部敏昭・山脇雅也・河上英仁・藤田 綾(2015) 数学教育学における協同的問題解決の学習(第 3 次研究): 学習過程の構築と評価の対象の転換. 地域学論集, 鳥取大学地域学部紀要, 12(1), 101-112.
2. Mizoguchi, Tatsuya & Yamawaki, Masaya (2016) Networking of mathematical activities through units for curriculum development: A case of “Functions and Equations”, Proceedings of the 9th International Conference on Educational Research, pp.834-845.

その他

1. 山脇雅也(2016)「補助線はこう引く! 目的に応じた補助線の探究しよう!」数学教育(2016年12月号), pp.70-73, 明治図書.
2. 山脇雅也(2017)「主体的・対話的な深い学び」を実現する中学校数学科の授業実践とその分析. (公財)日本教育公務員弘済会鳥取支部 平成 28 年度鳥取支部募集教育実践研究論文 個人研究奨励賞.
3. 山脇雅也(2017)「特上梨をたくさん詰めるには? 一次関数で箱詰めギフト」数学教育(2017年8月号), pp. 32-35, 明治図書.
4. 山脇雅也(2018)「数学の事象から問題を見出し解決する活動『関数』の教材アイデア」数学教育(2018年1月号), pp. 26-29, 明治図書.

学会発表

1. 山脇雅也・山本 靖・溝口達也: 関数と方程式の統合カリキュラムの開発研究: グラフを活用する能力と態度の育成をめざして. 日本数学教育学会 第 97 回全国算数・数学教育研究(北海道)大会, 北海道, 2015 年 8 月 7 日, (口頭発表)
2. 溝口達也・山脇雅也: 関数のグラフ表現における生徒の座標認識:《大きさ》から《位置》への認識の変容の必要性, 日本数学教育学会 第 48 回秋期研究大会, 信州大学, 2015 年 11 月 8 日, (口頭発表)
3. Mizoguchi, Tatsuya & Yamawaki, Masaya: Assessment of students performances in a lesson: Focus on the integrated unit ‘Functions and Equations’, World Association of Lesson Studies International Conference 2015, KKU, Thailand, 24-26 Nov, 2015. (口頭発表)
4. Yamawaki, M., Mizoguchi, T. & Yamamoto, Y.: Reproducing lessons about the unit ‘Functions and

- Equations’: Editing teacher’s guidebooks through lesson studies. The 13th International Congress on Mathematical Education, Hamburg, Germany, 27 July, 2016. (ポスター発表)
5. 山脇雅也・溝口達也: 関数と方程式の統合カリキュラムの開発研究(2): 中学校第3学年を対象とした単元を構成する考えと導入の具体. 日本数学教育学会第98回全国算数・数学教育研究(岐阜)大会, 岐阜, 2016年8月3日(口頭発表)
 6. 山脇雅也・溝口達也: 中学校数学科における2次関数と2次方程式の教授学習に関する研究: 統合単元「関数と方程式 III」の開発と実践, 全国数学教育学会 第45回研究発表会, 広島大学, 2017年1月28日(口頭発表)
 7. 山脇雅也・溝口達也: 関数と方程式の統合カリキュラムの開発研究(3): 2次関数と2次方程式の統合単元の実践とその分析. 日本数学教育学会第99回全国算数・数学教育研究(和歌山)大会, 和歌山, 2017年8月8日(口頭発表)
 8. Yamawaki, Masaya & Mizoguchi, Tatsuya: Lesson plan for cross border lesson between Japan and Russia, The 12th APEC-Khon Kaen International Symposium, KKU, Thailand, 9-12 Sep, 2017. (口頭発表)
 9. 溝口達也・山脇雅也・阿部好貴・大滝孝治: カリキュラム開発における数学的活動のネットワークング, 日本数学教育学会第50回秋期研究大会, 愛知教育大学, 2017年11月5日, (口頭発表)
 10. 山脇雅也・溝口達也: 国際的な授業設計における条件と制約: 日本とロシアによる「エネルギーと環境問題」の授業設計と実践を通じた分析, 全国数学教育学会 第47回研究発表会, 広島大学, 2018年1月27日. (口頭発表)
 11. Yamawaki, M., Mizoguchi, T., Visotsk, I.: Cross Border Lesson Study between Japan and Russia: about CO2 emission and energy supply, APEC-Tsukuba and UNESCO(MGIEP) International Conference XII, Tokyo Campus, University of Tsukuba, 8 Feb, 2018. (口頭発表)

【理科】

著書

1. 青木淳一(編著)(2015)日本産土壌動物 分類のための図解検索【第2版】東海大学出版部(東京) 1969 pp. ISBN: 978-4-486-01945-9. (ザトウムシ目. pp. 121-145.を分担執筆. 鶴崎展巨・鈴木正将)
2. 小玉芳敬・永松 大・高田健一(編)(2017)鳥取砂丘学. 古今書院(東京), 103 pp. (第7章. 鳥取砂丘にみられる生態系. 7-1. 海浜生態系の特徴 (pp. 44-47), 7-3. 鳥取砂丘の昆虫類 (pp. 52-55), 7-5. 多鯰ヶ池の動物 (pp. 57). (第8章. 鳥取砂丘の植生管理と動植物への影響. 8-4. 昆虫への影響.(pp. 62-64)を執筆. 鶴崎展巨)

論文

1. 福田みずほ・田口志奈・三浦早喜・遠藤颯之介・筒井雪未・畑 翔太・森田美貴子 (2018) 鳥取県東部におけるクロガケジグモのさらなる分布拡大と在来種への影響 (2017年の調査結果). 山陰自然史研究, No. 15. (印刷中, 受理済み)
2. 轟 裕明・鶴崎展巨 (2015) 汽水化以前(2003年)の鳥取市湖山池とその周辺のトンボ相. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 1-14.
3. 尹 振国・岩本真菜・鶴崎展巨 (2015) 塩分導入による湖山池のトンボ群集の崩壊. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 15-32.
4. 鶴崎展巨・川上大地・太田嵩士・藤崎謙人・坂本千紘(2015)鳥取砂丘におけるハンミョウ類の分布・生活史と1種の絶滅. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 33-44.

5. 江澤あゆみ・鶴崎展巨 (2015) 鳥取県における海浜性ウスバカゲロウ類の分布. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 45-53.
6. 中山 桂・板井竜二郎・井上健人・柏木峻秀・鶴崎展巨 (2015) 山陰海岸ジオパークエリア内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布(予報): 京都府・兵庫県. 山陰自然史研究, No. 11, pp. 55-64.
7. Tsurusaki, N. & Taga, H. (2015) Chromosomes of the ragweed beetle *Ophraella communa* (Coleoptera: Chrysomelidae) invaded to Japan. Chugoku-Kontyu, No. 28, pp. 1-8.
8. 鶴崎展巨・岡田 叡・杳野高也・深澤豊武・湯本祥平 (2016) 鳥取砂丘におけるエリザハンミョウの個体数推定(2015年). 山陰自然史研究, No. 13, pp. 1-10.
9. 鶴崎展巨・中山 桂・板井竜二郎・井上健人・柏木峻秀 (2016) 山陰海岸ジオパークエリア内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布. 山陰自然史研究, No. 13, pp. 11-24.
10. 尹 振国・鶴崎展巨 (2016) 多鯰ヶ池と鳥取市大塚のため池のトンボ相. 山陰自然史研究, No. 13, pp. 25-35.
11. 鶴崎展巨・尹 振国・岩本真菜 (2016) 湖山池におけるウチワヤンマ生息最終年の羽化消長. 山陰自然史研究, No. 13, pp. 37-44.
12. Burns, M. & Tsurusaki, N. (2016) Male reproductive morphology across latitudinal clines and under long-term female sex-ratio bias. Integrative and Comparative Biology, 56: 1-13.
13. 大高明史・木村直哉・鳥居高明・中村剛之・上島 励・阿部 渉・安倍 弘・栗城源一・鶴崎展巨・上田拓史・蛭田眞平・古野勝久・吉成 暁・吉澤和徳・香川清彦・山本 優・福原晴夫・尾瀬アカシボ研究グループ (2017) 融雪期の尾瀬ヶ原で雪に関連して見られる無脊椎動物相. 群馬県立自然史博物館研究報告, 21: 57-78.
14. 鶴崎展巨・唐沢重考・柴田祥明・飯田礼康・越田佳苗・塚本錬平・長谷川和樹・福井順也・村瀬真史・和田将典 (2017) 鳥取砂丘におけるハンミョウ 2 種の成虫の季節消長とエリザハンミョウの個体数推定(2016年). 山陰自然史研究, No. 14, pp. 9-16.
15. Burns, M., Hedin, M. & Tsurusaki, N. (2017) Population genomics and geographical parthenogenesis in Japanese harvestmen (Opiliones, Sclerosomatidae, *Leiobunum*). Ecology and Evolution. 1-17. DOI:10.1002/ece3.3605.
16. 鶴崎紗礼・鶴崎展巨 (2018) 外来種クロガケジグモの鳥取市における分布拡大と在来種への影響. 山陰自然史研究, No. 15 (印刷中, 受理済み)
17. 鶴崎展巨・唐沢重考・石川智也・猪野真也・岸田由幹・白岩颯一郎・千葉悠輔・服部理貴・福井二葉・武藤 諒 (2018, 印刷中) エリザハンミョウ鳥取砂丘集団の急激な個体数減少 — 2017年の標識再捕調査結果 —. 山陰自然史研究, No. 15 (印刷中, 受理済み)

その他

1. 鶴崎展巨 (2015) 崖つぶちの海岸性昆虫. 昆虫と自然, 50(3): 2-3.
2. 鶴崎展巨・奥島雄一 (2016) アマミサソリモドキの岡山県への移入例(クモガタ綱, サソリモドキ目, サソリモドキ科). 倉敷市立自然史博物館研究報告, No. 31. pp. 37-38.
3. 鶴崎展巨・淀江賢一郎 (2016) 鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録 第7集(2015年). 山陰自然史研究, No. 13, pp. 45-54.
4. 鶴崎展巨 (2016) アカサビスベザトウムシ・オオナミザトウムシ・ヒコナミザトウムシ・イラカザトウムシ・サトウナミザトウムシ. pp. 542-543. In: 滋賀県生きもの総合調査委員会(編)(2016)滋賀県で大切にすべき野生生物. 滋賀県レッドデータブック 2016年版. サンライズ出版(滋賀県彦根市), 647 pp.
5. レッドリスト上関編集委員会(50音順) 荒井章吾・安溪貴子・飯田知彦・岡野友紀・粕谷俊雄・加藤真・金井塚務・佐藤正典・嶋田淑子・神保宇嗣・鶴崎展巨・西海 功・山下博由・山本尚佳 (2016) レッドリスト上関 2016 山口県上関の希少野生動植物. 上関の自然を守る会(代表 高島美登里), 山口県熊毛郡上関町 26 pp.
6. 鶴崎展巨 (2016) 第20回国際クモ学会議(2016年7月2~9日, アメリカ合衆国コロラド州ゴールド)

ン)印象記. *Acta Arachnologica*, 65 (2): 100-105.

7. 鶴崎展巨 (2017) コウヤスベザトウムシ・オオナミザトウムシ・ヒコナミザトウムシ. p. 344.+アカサビザトウムシ p. 721. In: 奈良県レッドデータブック改訂委員会(編)大切にしたい奈良県の野生動植物 奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版.奈良県くらし創造部景観・環境局 景観・自然環境課, 791 pp.
8. 下謝名松栄・鶴崎展巨 (2017) クメコシビロザトウムシ (pp. 408-409. オヒキコシビロザトウムシ (pp. 412) In: 沖縄県環境部自然保護課(編)改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版 動物編 レッドデータおきなわ, 沖縄県環境部自然保護課, 712 pp.
9. 鶴崎展巨・淀江賢一郎 (2018) 鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録 第8集 (2016年), 山陰自然史研究, No. 15, (印刷中, 受理済み)

学会発表・講演等

1. 服部和晃・泉 直志・高橋ちぐさ: 中学校理科授業におけるオーラル・アーギュメント促進のための教材開発と授業実践. 第66回日本理科教育学会中国支部大会 鳥取大学共通教育棟(鳥取市), 2017年11月18日(口頭発表)
2. 井殿加奈子・高橋ちぐさ・泉 直志: 中学校理科における協働的学習の授業実践 「無脊椎動物のなかま」の授業を事例として-. 第66回日本理科教育学会中国支部大会 鳥取大学共通教育棟(鳥取市), 2017年11月18日(口頭発表)
3. 鶴崎展巨: 鳥取砂丘におけるハンミョウ類の分布・生活史・衰亡とクロコウスバカゲロウの衰退. ふしぎ発見! 鳥取砂丘. 鳥取砂丘調査研究報告会(鳥取砂丘再生会議 保全再生部会 調査研究会 鳥取県), とりぎん文化会館第2会議室(鳥取市), 2015年1月10日(シンポジウム講演)
4. 鶴崎展巨: 愛媛県の外来性クモ ～セアカゴケグモからイヨグモまで～. 愛媛県生物多様性センター依頼講演. 松山市にぎたつ会館(松山市), 2015年2月17日(依頼講演)
5. 鶴崎展巨: 香川県とその周辺におけるザトウムシ相と地理的分化. 日本でもっとも豊かな種数・環状重複・ミュー型擬態, 第38回日本土壌動物学会大会, 香川大学農学部(香川県木田郡三木町), 2015年5月23日(シンポジウム講演)
6. 鶴崎展巨・深川博美: 古文書からのコモンでないイヨグモの多量出現が示す近世以降の屋内クモ相の変化, 日本動物学会中国四国支部第67回大会(生物系三学会中国四国支部大会), 愛媛大学(松山市), 2015年5月17日(口頭発表)
7. 鶴崎展巨・岸田紀子: 丹後山地とその周辺におけるイラカザトウムシの染色体数の地理的分化, 第38回日本土壌動物学会大会, 香川大学農学部(香川県木田郡三木町), 2015年5月23日(口頭発表)
8. 鶴崎展巨・野坂 舞・岸田紀子・石田龍平: 丹後山地とその周辺におけるイラカザトウムシとオオナミザトウムシの核型の地理的分化と交雑帯, 日本動物分類学会第51回大会, 広島大学教育学部(東広島市), 2015年6月13日(口頭発表)
9. 鶴崎展巨・横山瑞歩: 丹後山地におけるアカサビザトウムシの染色体数の爆発的で求心的な増加, 日本動物分類学会第51回大会, 広島大学教育学部(東広島市), 2015年6月13日(ポスター発表)
10. 鶴崎展巨・岸田紀子・石田龍平: 丹後山地とその周辺におけるイラカザトウムシとオオナミザトウムシの核型の地理的分化, 日本蜘蛛学会第47回大会, 京都女子大学(京都), 2015年8月22日(ポスター発表)
11. 鶴崎展巨・小川弘展: 愛媛県におけるイラカザトウムシ(クモガタ綱ザトウムシ目)の染色体数の地理的分化, 日本蜘蛛学会第47回大会, 京都女子大学(京都), 2015年8月22日(口頭発表)
12. 鶴崎展巨: 分子系統解析で激変したザトウムシの系統認識と分類: カワザトウムシ科の再編と「マメザトウムシ上科」の終焉, 日本蜘蛛学会第47回大会, 京都女子大学(京都), 2015年8月22日(シンポジウム講演)

13. 鶴崎展巨・横山瑞歩・岸田紀子・石田龍平:丹後山地におけるザトウムシの核型分化の集中. 日本動物学会第86回新潟大会, 朱鷺メッセ(新潟市), 2015年9月17日, 口頭発表.
14. 鶴崎展巨:砂丘生物講座. 「鳥取砂丘」の昆虫の自然史. 平成27年度鳥取砂丘大学 第1回. 民営国民宿舎ニュー砂丘荘大会議室(鳥取市), 2015年11月1日(依頼講演)
15. 鶴崎展巨:鳥取砂丘の絶滅危惧昆虫～多彩な顔ぶれとそれらの生態～. 三井住友信託銀行鳥取支店 CSR セミナー「鳥取の教育」を考えるセミナー. 鳥取市文化ホール(鳥取市), 2015年12月21日(依頼講演)
16. 鶴崎展巨:鳥取砂丘におけるハンミョウ類の分布・生活史と個体数推定の試み. ふしぎ発見!鳥取砂丘. 鳥取砂丘調査研究報告会(鳥取砂丘再生会議保全再生部会調査研究会, 鳥取県), とりぎん文化会館第2会議室(鳥取市), 2016年1月23日(依頼講演)
17. 中山 桂・井上健人・柏木峻秀・板井竜二郎・鶴崎展巨: 山陰海岸ジオパークエリア内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布. 生物系三学会中国四国支部大会鳥取大会, 米子コンベンションセンタービッグシップ(米子市), 2016年5月14日(ポスター発表)
18. 鶴崎展巨・岡田 叡・沓野高也・深澤豊武・湯本祥平: 鳥取砂丘におけるエリザハンミョウの個体数推定. 生物系三学会中国四国支部大会鳥取大会, 米子コンベンションセンタービッグシップ(米子市), 2016年5月14日(ポスター発表)
19. 鶴崎展巨・川上大地・横山瑞歩:丹後山地(京都府・兵庫県)と布引山地(三重県)におけるアカサビザトウムシの染色体数の連続的で急激な増加. 生物系三学会中国四国支部大会鳥取大会, 米子コンベンションセンタービッグシップ(米子市), 2016年5月15日(口頭発表)
20. 川上大地・鶴崎展巨:三重県布引山地におけるアカサビザトウムシの染色体数の求心的増加. 日本動物分類学会第52回大会, 北海道大学理学部(札幌市), 2015年6月10日(口頭発表)
21. Tsurusaki, N. & Fukagawa, H.: Mass findings of an uncommon spider *Prodidomus rufus* from Komon-jo: Time capsule of indoor spider fauna from Edo Period. The 20th International Congress of Arachnology. Colorado School of Mines, Golden, Colorado, USA, 2016年7月3日(ポスター発表)
22. Tsurusaki N., Kawakami, D., & Yokoyama, M.: Cascading increase of the chromosome number showing concentric rings in *Gagrellula ferruginea* (Arachnida: Opiliones) in two different mountains in Japan. The 20th International Congress of Arachnology. Colorado School of Mines, Golden, Colorado, USA, 2016年7月3日(口頭発表)
23. Burns, M., Hedin, M., & Tsurusaki N.: Population genomics and geographical parthenogenesis in Japanese harvestmen (Opiliones, Sclerosomatidae). The 20th International Congress of Arachnology. Colorado School of Mines, Golden, Colorado, USA, 2016年7月8日(口頭発表)
24. 川上大地・鶴崎展巨:三重県中部におけるアカサビザトウムシの染色体数の求心的かつ連続的な急増. 日本蜘蛛学会第48回大会, 東京大学柏キャンパス新領域環境棟FS ホール(千葉県柏市), 2015年8月20日(ポスター発表)
25. 鶴崎展巨・小川弘展:愛媛県とその周辺におけるイラカザトウムシの染色体数の地理的分化. 日本蜘蛛学会第48回大会, 東京大学柏キャンパス新領域環境棟FS ホール(千葉県柏市), 2015年8月21日(口頭発表)
26. 〇竹原 周・鶴崎展巨・上島 励:分子系統解析に基づく日本産ナミザトウムシ種群の分類学的再検討. 日本蜘蛛学会第48回大会, 東京大学柏キャンパス新領域環境棟FS ホール(千葉県柏市), 2015年8月21日(口頭発表)
27. Tsurusaki, N., Kawato, S., Kawaguchi, M., Matsumoto, T., & Sato, H.: *Gagrellula ferruginea* (Arachnida: Opiliones: Sclerosomatidae) is a ring species that involves at least two cases of circular overlap. ICSZ & ICA 2016. XVII International Colloquium on Soil Zoology, Nara Kasugano International Forum IRAKA(奈良市), 2015年8月24日(ポスター発表)
28. Tsurusaki, N., Yokoyama, M., & Kawakami, D.: Centripetal surge in the chromosome number of *Gagrellula ferruginea* (Arachnida: Opiliones: Sclerosomatidae) in two different mountainous ranges

- in the Kinki District, Honshu, Japan. ICSZ & ICA 2016. XVII International Colloquium on Soil Zoology, Nara Kasugano International Forum IRAKA (奈良市) 2015年8月26日(口頭発表)
29. 井上健人・鶴崎展巨: 鳥取県西部日野川左岸で見つかったアカサビザトウムシ(ザトウムシ目カワザトウムシ科)の染色体交雑帯とその性質. 平成28年度日本応用動物昆虫学会中国支部・日本昆虫学会中国支部合同例会, 会場: 鳥取大学広報センター, 2016年10月21日(口頭発表)
 30. 鶴崎展巨: 砂丘生物講座. 「鳥取砂丘の昆虫の自然史. 絶滅危惧昆虫の多様な顔ぶれとそれらの生態. 平成28年度鳥取砂丘大学 砂丘生物講座. 民営国民宿舎ニュー砂丘荘大会議室, 2016年11月5日(依頼講演)
 31. 井上健人・鶴崎展巨: 鳥取県日野川流域におけるアカサビザトウムシの染色体数の地理的分化と染色体交雑帯の性質. 鳥取県生物学会2016年度例会, 鳥取県立博物館講堂(鳥取市), 2016年12月18日(口頭発表)
 32. 鶴崎展巨・山根一眞: 鳥取市雨滝で見つかった鳥取県初記録となるオオナミザトウムシ. 鳥取県生物学会2016年度例会, 鳥取県立博物館講堂(鳥取市), 2016年12月18日(口頭発表)
 33. 鶴崎展巨: 鳥取砂丘から第2の絶滅種を出さないために - エリザハンミョウの個体数の推定 -. ふしぎ発見! 鳥取砂丘. 鳥取砂丘調査研究報告会(鳥取砂丘再生会議保全再生部会調査研究会, 鳥取県), とりぎん文化会館第2会議室(鳥取市), 2016年1月22日(依頼講演)
 34. 鶴崎展巨・唐沢重考・柴田祥明・飯田礼康・越田佳苗・塚本錬平・長谷川和樹・福井順也・村瀬真史・和田将典: 鳥取砂丘におけるハンミョウ2種の成虫の季節消長とエリザハンミョウの個体数推定. 生物系三学会中国四国支部大会高知大会, 高知大学(高知市), 2017年5月13日(ポスター発表)
 35. 鶴崎展巨・井上健人: 鳥取県日野川左岸で見つかったアカサビザトウムシ(クモガタ綱ザトウムシ目カワザトウムシ科)の染色体交雑帯とその特異な性質. 日本動物分類学会第53回大会, 海洋研究開発機構横浜研究所(横浜市), 2017年6月3日(口頭発表)
 36. 鶴崎展巨・井上健人・松本文哉: アカサビザトウムシ(クモガタ綱)におけるヘテロ接合核型が高適応度を示す染色体交雑帯. 日本進化学会第19回大会, 京都大学吉田キャンパス(京都市), 2017年8月24日(口頭発表)
 37. 鶴崎展巨・井上健人・松本文哉: アカサビザトウムシ(クモガタ綱ザトウムシ目)で見つかったヘテロ接合核型に有利な染色体交雑帯. 日本昆虫学会第77回大会愛媛大学(松山市), 2017年9月4日(口頭発表)
 38. 鶴崎展巨・井上健人・松本文哉: アカサビザトウムシにおけるヘテロ接合核型優位の染色体交雑帯. 染色体学会第68回大会, 広島大学学士会館(東広島市), 2017年10月7日(口頭発表)
 39. 鶴崎展巨・柏木峻秀・唐沢重考: 九州・屋久島産のアカサビザトウムシ種群の核型と分子系統解析: 二重侵入仮説の却下. 日本蜘蛛学会第49回大会琉球大学学生会館(沖縄県西原町), 2017年11月4日(口頭発表)
 40. 鶴崎展巨・坂本千紘・湯本祥平: 東北地方における数種ザトウムシの染色体数の地理的分化. 日本蜘蛛学会第49回大会, 琉球大学 学生会館(沖縄県西原町), 2017年11月4日(ポスター発表)
 41. 鶴崎展巨・深谷信一・川野敬介・唐沢重考: 鳥取県初記録となるフサヤスデの2「亜種」とその分類学的扱い. 鳥取県生物学会研究発表会, 鳥取県立博物館(鳥取市), 2017年12月2日(口頭発表)

【音楽】

論文

1. 鈴木慎一郎・廣富恵美子・大野 桂(2016)音楽授業の「導入」における現状と課題 — 鑑賞と言葉に着目して — 地域学論集 鳥取大学地域学部紀要. 2016, 12(3), pp. 157-170.
2. 鈴木慎一郎・大野桂・廣富恵美子(2017)小中連携における鑑賞活動のカリキュラム開発の基礎調査 -教科書分析を通して- 地域学論集 鳥取大学地域学部紀要. 2017, 13(1), pp. 49-61.

3. 鈴木慎一郎・廣富恵美子(2018 印刷中)中学校における音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法開発 —《ソーラン節》を通して— 地域学論集 鳥取大学地域学部紀要. 2018, 14(2), (受理済み)

その他

1. 廣富恵美子(2016)「やりくりのたとえば」, 教育音楽 中学・高校版(音楽之友社)2016年8月号, p. 60.

学会発表

1. 鈴木 慎一郎・大野桂・廣富恵美子:小中大連携による音楽授業の現状と課題:2015(平成 27)年度研究発表大会に着目して, 日本音楽教育学会第 47 回大会, 横浜国立大学, 2016 年 10 月 9 日(口頭発表)

【技術科】

論文

1. 中尾尊洋・土井康作(2015)中学校技術科教育における工夫的アプローチが知識・技能に及ぼす効果. 地域学論集. 鳥取大学地域学部紀要. 12(2): 157-176.
2. 中尾尊洋 (2017) プログラムの理解を促すアンプラグド・アクティビティの開発, (公財)東京海上日動教育振興基金第 34 回教育研究助成事業採択 (個人研究の部)
3. 中尾尊洋・土井康作 (2018) プログラミングにおける時間の感覚を発想させる教授法の効果. 地域学論集. 鳥取大学地域学部紀要. 14(3) (印刷中, 受理済み)

その他

1. 中尾尊洋 (2015) 道具の意味を考える授業づくり～道具を扱う技能と工夫する能力を伸ばす授業の実践～, 技術分野の実践例・授業提案集中国・四国編, pp.2-3, 開隆堂出版

学位論文

1. 中尾尊洋 (2016) 「中学校技術科教育における創造的思考力の育成に関する研究」, 鳥取大学大学院, 学位論文(修士)

学会発表

1. 中尾尊洋 (2015) <全体発表>社会を生き抜く力を育む技術・家庭科教育—「創造」に学び, 問題解決を実践する授業づくり—, 第 53 回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会, 鳥取県とりぎん文化会館, 2015 年 12 月 2 日(口頭発表)
2. 中尾尊洋・土井康作 (2016):計測・制御プログラムの学習における時間概念を発想させる教授法の効果, 日本産業技術教育学会第 59 回全国大会, 京都教育大学, 2016 年 8 月 27 日(口頭発表)
3. 中尾尊洋・土井康作 (2017):プログラミングの思考力育成に関する実証的研究, 日本産業技術教育学会第 60 回全国大会, 弘前大学, 2017 年 8 月 26 日(口頭発表)
4. 中尾尊洋 (2017): 試行錯誤を通して知識・技能の獲得を促す授業展開の工夫～教えない道具の学習をプログラミング学習に活かして～, 子どもの遊びと手の労働研究第 44 回全国大会, 兵庫県神戸市寿楼臨水亭, 2017 年 8 月 6 日(口頭発表)

【健康教育】

論文

1. 山田由美子(2015)自尊感情を育む健康教育:生徒理解に向けて・自尊感情の測定と感想文の分類. 日本教育大学協会養護教諭部会全国国立附属学校連盟養護教諭部会研究集録 No. 50, pp. 89-96.

学会発表

1. 田渕愛子・山田由美子・望月美紗子・近藤 卓(2015) 基本的自尊感情理解のための小中学生用教材開発—フェルト製教材の作製意図と期待される効果—. 日本学校メンタルヘルス学会 第18回大会 兵庫県民会館(神戸市), 2015年1月10日(ポスター発表),
2. 山田由美子・安井 仁・田中佑果・近藤 卓(2016) 健康教育としてのいのちの授業 保健学習「ストレスの対処と心の健康」～感情の共有と自尊感情～ 日本いのちの教育学会第18回大会, 山陽学園大学(岡山市), 2017年2月25日(ラウンドテーブル)

平成 29 (2017) 年度 研究同人・共同研究者

校長 鶴崎展巨

副校長 坪内 茂

教科	研究同人	共同研究者
国語	山根英明・上川寛子・藤原一恵	小笠原 拓 (鳥取大学)
社会	福代 明・村山明生・梶川 昇	高橋健司 (鳥取大学)
数学	中田幸一・山脇雅也・小出智栄子	矢部敏昭 (鳥取大学) 溝口達也 (鳥取大学)
理科	森田美貴子・井殿加奈子・服部和晃	高橋ちぐさ (鳥取大学) 泉 直志 (鳥取大学)
英語	石田 順・竹川由紀子	足立和美 (鳥取大学)
音楽	廣富恵美子	鈴木慎一郎 (鳥取大学)
美術	木村信一郎	武田信吾 (鳥取大学)
保健体育	安井 仁・吉田有希	関 耕二 (鳥取大学)
技術・家庭	中尾尊洋・安田春菜	土井康作 (鳥取大学) 福田恵子 (鳥取大学)
健康教育	山田由美子	谷中久和 (鳥取大学)

鳥取大学附属中学校研究紀要
Bulletin of the Tottori University Junior High School
No. 49

編集：中尾尊洋・鶴崎展巨
発行：2018年(平成30年)3月1日
発行者：鳥取大学附属中学校
〒680-0945 鳥取市湖山町南4丁目101
TEL 0857-31-5175 FAX 0857-31-5176
印刷：有限会社 福井印刷